

島根県武術太極拳連盟

—— これまでのあゆみ

昭和55年より、松江と出雲を中心に太極拳が少しずつ広がり、平成12年4月に安来・斐川・雲南・隠岐・浜田が加わり7団体の構成で島根県武術太極拳連盟が発足した。

日本連盟で実施の指導員養成事業、5級から初段までの太極拳検定事業、審判員取得事業にも取り組んできた。また県連発足当初より、カンフーの普及にも取り組み、JOC大会参加を目標にすそ野を広げるべく、子ども達のカンフー教室に力を注いできた。

その成果で平成26年4月、島根県体育協会へ加盟することができ、太極拳約700人、カンフー約100人の会員登録数となった。

一方で太極拳愛好者の7割が高齢者のため、老化防止と健康維持のための活動が中心となり、太極拳を取り入れた「カラコロ太極拳体操」が作られ、松江市では地元ケーブルテレビで毎日放映され、市民の健康増進に大いに貢献できるようになった。



令和5年健康福祉祭開会式

—— 現在の状況

カンフーの子ども達の育成が花を開き始め、令和5年のJOC大会・全日本大会・国体で3人の代表選手が1位～3位を獲得できた。年間行事としては、年に1回「健康福祉祭太極拳大会」と「カンフーフェスティバル」が開催されている。

—— これから

少子高齢化社会の到来が叫ばれている。高齢化に対応して、ゆったりとした動きで足腰を強化していく太極拳の役割は、さらに大きくなると思われる。一方少子化への対応では、スポーツ、技術、競技力向上として次代を担う若者を育てる事を実現していく。健康で長生きできる高齢者がそれを応援し、支えていきたい。2030年の島根かみあり国スポでは、公開競技としての参加となるが、若者が大きく羽ばたけるよう、太極拳愛好者、カンフーの子ども達、保護者が一丸となって頑張り、取り組んでいきたいと思う。



令和5年太極四緯扇の表演



カンフーフェスタ2023



趙霞先生講習会